

第1回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、平成28年度第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について次のとおりお知らせします。

1. 日時

平成28年6月17日(金曜日) 13時30分～15時30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 検討結果

道内の木材需給状況や各委員の発言を踏まえ、現時点で国有林材の供給調整を行う必要はないとの意見集約が得られた。

4. 主な意見等

- トドマツについては、原木は各工場ともそこそこ持っている、製品の動きは必ずしも良いとは言えないが、ある程度の生産分の在庫があると聞いている。原木の入札や価格の状況を見るとバイオマス関連の動きを睨み原木確保を図っており、在庫は現状十分にあるが先々の心配もあって、買い手が常にあるような状況なのだと思う。
- 関東向けのトドマツの産業用資材等は、昨年から比べると若干増えているが期待するほどの量ではないため、建築材に向け生産している。建築材は国産材の需要があるので、安定的に供給してもらえたら買いたいという話は各方面からある。
- カラマツの製材については、全体的な受注の様子を見ると昨年同様5月の受注は通常期の10%ぐらい少ない。輸出向けの梱包材が厳しい状況の中、国内のレンタルパレットの全体量は減ったが、最近発注が増えて道内の他の工場にも協力をお願いしている。ラミナは、昨年は一般住宅向け・公共建築物向けの材は激減したが今年度に入ってほぼ通常の集荷量に戻ってきた。
- L原材料については、相変わらず不足気味。オガ粉も不足していると聞いており、一般の製材工場から出るオガ粉も各社での値上げが推測される。L一般材は、先月あたりから価格が崩れ、特にナラの価格が下がっており、製材工場への入荷量が多かったことや夏場を迎えての材の劣化等の要素があると思われる。

- 製紙用のパルプ関係については、紙の需要が減って生産量も減っており、製材工場から出てくるエゾ・トドの背板チップも減ってチップの総量も減っている。カラマツチップは増えていると感じる。自社独自で4月に輸送費を若干高めに見直したので遠隔地から運材しやすくなった。

- 流通関係については、トドマツは現状不足感はないが、需要もあり良い感じの動きとなっている。ただ短期的に見ると小径木が少し足りない感じではある。カラマツについても不足感はない。これからの時期は、移出を行っている事業者はあまり港に在荷できなくなるので、製材の動きが鈍い状況と聞くと先々原木が余るという不安はある。

- 今年度に入ってから、東北で合板工場の火災もありトドマツの動きが若干落ちているように思う。為替の関係もあるが、最近、合板原料は国産材と輸入材の棲み分けができていたので道内の材の急な価格の変化には繋がらないと思うが、注意する必要がある。

- 製材工場の在庫量については、全道平均で2.5ヶ月分の在庫となっており、今の状況は在庫不足ではないが、5・6月は生産量が落ちているのでこの先の情報収集は必要である。価格も年度末以降横ばいであり、今の流れからすると現状では供給調整の必要はないと思う。